

1. 本講座の目指すところ

「深く掘るなら広く掘れ」という言葉があります。

郷土の偉人、鈴木正三を深く理解するためには、広く仏教を学ばなければなりません。釈尊は、いつの時代でも、どの地域でも、誰にでも通じる正しい人生の道筋を示されました。その道を進めば、私たちは最も生き生きした人生を過ごすことができます。

鈴木正三の思想と実践を理解するために腰を据えて、いっしょに仏教を学びましょう。

インド仏教から中国思想と融合した禅仏教、日本独自の鎌倉仏教までを一步一步、長い時間をかけて共に学びましょう。

不測の事態が発生しないかぎりこの講座を年4回継続します。

2. 本講座の参考文献

2-1 『大正新脩大藏經』(たいしょうしんしゅうだいぞうきょう)

大正13年から昭和9年までの10年間をかけて、編纂した大藏經。正藏(中国所伝)55巻、続藏(日本撰述)30巻、別巻15巻(図像部12巻、昭和法宝総目録3巻)の全100巻から成る。

近年では、東京大学の『大正新脩大藏經』テキストデータベース(SAT)といったプロジェクトが、大正藏の電子テキスト化を推進している。それらは、自由に使用できる。

<https://21dzk.l.u-tokyo.ac.jp/SAT/ddb-sat2.php>

2-2 『鈴木正三全集 上・下』 神谷満雄、寺沢光世 編集・校注

平成18年3月31日、平成19年11月 発行 鈴木正三研究会(豊田市足助資料館内)

2-3 『鈴木正三研究集録 第1号から第8号』 研究集録編集委員 編集

平成10年3月31日 ~ 平成17年3月10日 発行 鈴木正三研究会

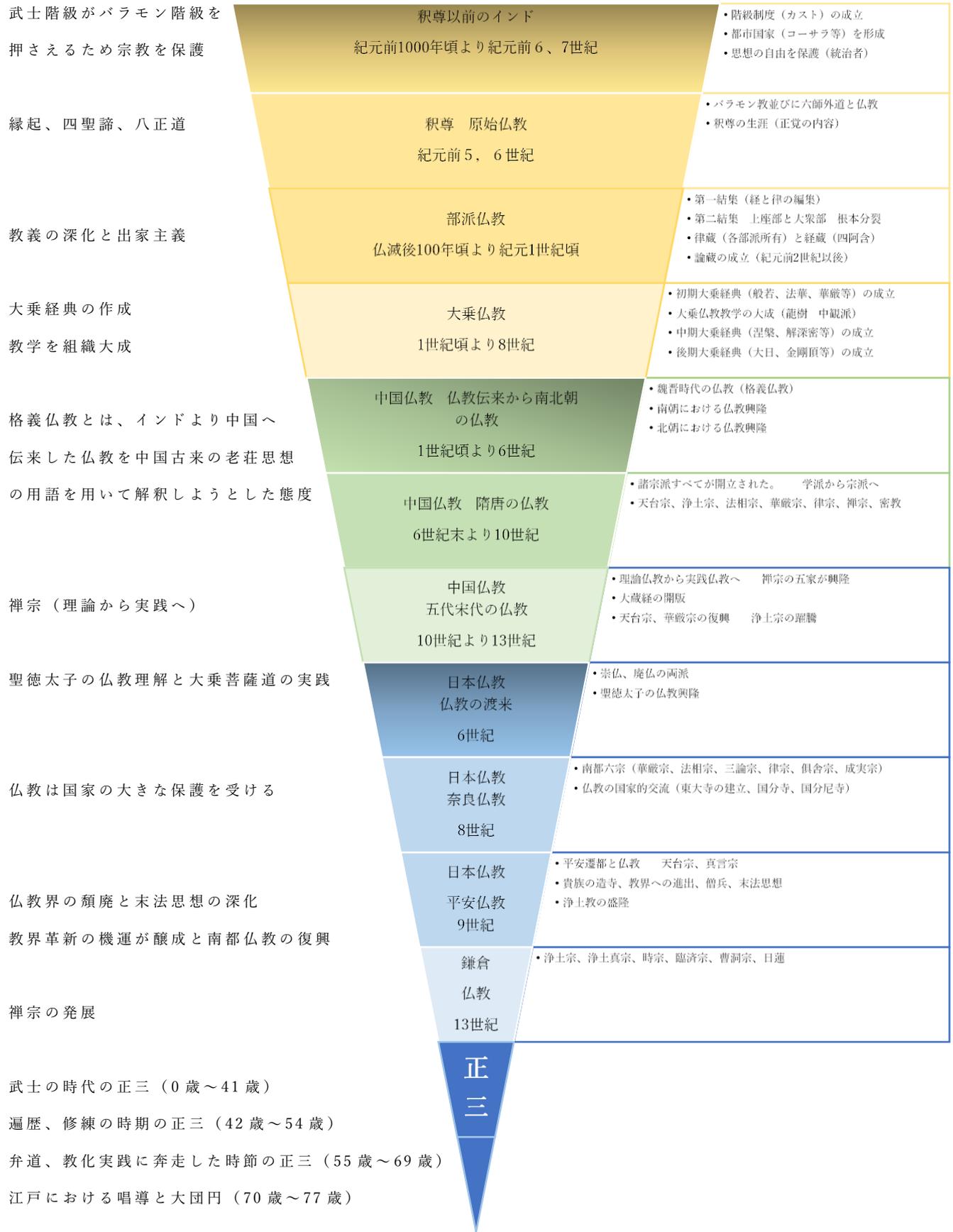
2-4 『正法眼蔵 本山版 95巻』 鴻盟社 昭和50年7月31日 五版発行

2-5 『正法眼蔵随聞記 道元語録』岩波文庫 昭和41年7月10日 29刷発行

2-6 その他、参考にしたり、引用した文はその都度、文献名を明らかにして後日、参照しやすくします。

3. 本講座の地図（今、どこを掘っているのかを分けるために）

仏教の概略



4. 本講座で仏典を読む態度(自戒を込めて)

・「仏典を読むとは、あなたが日ごろ正しいと思っていることが実は間違っていたと気づくことだ」

(渡部耕法、私の師匠)

・「佛祖ノ言教ヲ見ル事ハ我慢ノ幢ヲ折り、自己ノ非ヲアラタメ、無我無人ト成ツテ一切衆生ヲ愍ミ、功德ヲアタエシメントメナリ」

(鈴木正三 『麓草分』學文有得失事 1636年 正三 58歳)

・「しめしていわく、しるべし、仏家には、教えの殊劣を対論することなく、法の浅深をえらばず、ただし修行の真偽をしるべし」

(道元禅師 『正法眼蔵 辨道話』 鴻盟社 本山版縮刷)

・「玉は琢磨によりて器となる、人は練磨によりて仁となる。何いづれの玉か初より光ある、誰人か初心より利なる。必ずすべからくこれを琢磨し、練磨すべし。自ら卑下して学道をゆるくすることなかれ」

(道元禅師 『正法眼蔵随聞記』4-5 孤雲懷奘 編)

・「一発菩提心を百千萬発するなり、修証もまたかくのごとし」

(道元禅師 『正法眼蔵 発無上心』 鴻盟社 本山版縮刷)